



平成29年4月20日

本当の気遣い

4月10日より給食が始まりました。入学して間もない1年生はまだまだ上手に配膳ができません。例年、6年生が1年生の給食の準備を手伝ってあげます。これが伝統となっており、毎日、6年生はあたりまえに1年生のお世話をしています。

4月14日に4年生は射水消防本部へ校外学習に出かけました。本校では、体験から学ぶことを大切にしていきたいと考えています。本物が教えてくれることに真実があると思っています。消防署の方々に丁寧に接していただき充実した学習ができました。帰校したのは12時を過ぎていました。



〈1年生の給食準備〉

急いで給食の準備をしなければならない時刻です。「今日は少々、給食を食べるのがおそくなるかな」そう思っていました。そんな矢先、いつものように職員室に代替食を取りに来た子供がいます。あれ、4年生です。教室の給食の準備が整った後に取りに来るきまりになっているはずです。学校に着いてからまだどれだけでも経っていないのに、もう準備が整うはずがないと不思議に思いました。その子に尋ねてみました。「もう給食の準備がおわったの？」そうすると、「6年生が準備をしてくれた」の返答がありました。

「そうか、4年生の帰校が遅れていることに気付いた6年生が準備してくれたのか」1年生の配膳をした上に、4年生の分までしてくれたのでした。「6年生だから1年生のお世話をするのはあたりまえという気持ちで給食の準備を手伝っていたわけではない。相手のことを思い、相手のためを考えているのだ」私は、6年生の行動に本当の気遣いとは何かを教えられた気がしました。

こんなに思いやりのある先輩をもった下級生は幸せです。そして、こんな頼りになる6年生がいる学校に勤められる私も幸せです。